綱　領

1. われわれは、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて吾々の権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
2. われわれは、常に暴力と独裁を排し自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
3. われわれは、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。

日赤新労

平成29年
1月1日
発　行
第235号

発　行　所
日本赤十字新労働組合連合会
（日赤新労）
東京都港区芝大門1-16-11茶乃木ビル5F
TEL（03）3433-3028
FAX（03）3432-4560
Eメール　shinro@shinro.org
ホームページ http://www.shinro.org/
発行責任者　河　﨑　勝　自

平成28年度

第三回中央委員会開催

―今年度年末手当について活発に意見交換を行う―

十二月十日、十一日の両日、食の都・大阪市において平成二十八年度第三回中央委員会が開催された。「ホテルコスモスクエア国際交流センター」を会場に行われた会議には、全国加盟単組より中央委員及びオブザーバー等九十一名の参加者を得て、議題である平成二十九年度運動方針案や要求書案等について慎重な審議が行われた。

第三回中央委員会は、開会のことばの後に資格審査・成立確認が行われ、議長に星野哲也氏（原町日赤）、副議長に小野木学氏（名二日赤）、書記に大渕賢一氏（鳥取日赤）が選出された。

審議に先立ち山本中央執行委員長が挨拶に立ち、次のように述べた。

「平成二十八年度賃金要求については第二回中央委員会にてご審議いただき、定昇込み三％（一万千円）、今後の交渉については本部一任をいただいたが、鋭意交渉した結果、これ以上の歩み寄りははかれないと考え、定昇込み平均一・七二％、一人当たり六千三百四十六円の引上げで妥結したものではなく、あくまでも一事業所として妥結したもの」としているが、この通知文書により単組施設間では近年にない交渉が繰り広げられ、単組執行部におかれては大変な苦労をされたと思う。今後は、本社より提案のあった給与要綱第三五の改正についても再議論していく必要があるのではないかと思っている。

今中央委員会においては第五十六回定期全国大会に向け、平成二十九年度運動方針及び要求書等を検討していかなければならないので、活発に意見を発言してご審議頂きたく、よろしくお願いしたい。」

なお、十日（土）午前には週休二日制推進委員会が一年ぶりに開催され、未実施施設の五単組が参加して、週休二日制実施に向けた活動及び進捗状況が話し合われた。

■報告事項■

一、各部報告

【組織部】

○愛知県赤十字血液センター職員組合結成五十周年記念式典に出席

○秋田乳児院内部強化

【教宣部】

○初心者研修会の開催

○年末手当交渉のための宣伝ビラ・ポスターの作成

【調査部】

○平成二十八年度調査結果の集計・発送

○年末一時金等の調査実施

二、一般経過報告

平成二十八年度給与改定等の交渉経過を中心に資料にそって報告が行われた。質疑応答では、今年度の年末手当支給において本社支給額が人事院勧告を下回ったことから、単組・施設間交渉が難航したことが報告された。また、法改正に伴う育児休業規程等の改正についても、質疑応答が行われた。

■審議事項■

一、平成二十九年度運動方針案について

各ブロック会議等で検討された修正箇所について審議が行われ、一部修正の後賛成多数で承認された。なお、従来どおり、今後の国内外の動きや諸集計結果に対応して、一部については定期大会までに修正することが了承された。

スローガン、闘争方針案については、全会一致で原案どおり承認された。

二、要求書案について

基本賃金の引上げについては、賛成多数で定昇込み三・〇％（一万千円）と決定された。諸手当の改善においては、新たに「資格手当を支給すること」を要求項目に加えることとし、一部字句の修正の後、賛成多数で承認された。また、これまで要求項目に掲げている「給与要綱第三五の改正」については、今年度の年末手当交渉が難航した経緯を踏まえ、今後あらためて十分な議論を行っていくこととした。

三、予算案について

本部会計より平成二十九年度予算計上について説明があり、人件費においては来年度からの事務局体制について報告があった。また、闘争資金の運用についても質疑が行われ、賛成多数で承認された。ただし今年度会計はまだ執行中なので、来年度予算枠は今年度末の決算後に若干修正されることになる。

四、本部役員について

役員詮衡委員長の呉和英氏（那須日赤）より、中央委員会に先立って開催された役員詮衡委員会の報告が行われた。現在、人選にかなり難航していることから、二月の定期全国大会に支障のないよう、場合によっては臨時の役員詮衡委員会を開催することが提案され、賛成多数で承認された。

五、大会運営について

第五十六回定期全国大会開催にあたり、日程、大会役員等の確認が行われた。

六、その他

○週休二日制について

週休二日制推進委員会より前日の協議内容が報告され、未実施施設に対し本社の強い指導が求められた。

○日直・当直料について

日直・当直料の支給においては、課税対象となるので注意が必要である。

年頭にあたって

中央執行委員長　山本　俊一

新年明けましておめでとうございます。

平成二十九年の新年を迎えるにあたり、年頭のご挨拶を申し上げますとともに、旧年中に賜りました日本赤十字新労働連合会の諸活動に対する組合員の皆様のご支援ご協力に心より御礼申し上げます。

さて、内閣府の発表する月例経済報告は、ここ数年は「緩やかな回復基調が続いている」と発表されているにも関わらず、実際には景気回復を実感できておりません。

このような中、平成二十八年度賃金要求に関しましては、要求額定昇込み三％（一万千円）には届かなかったものの、職員の基準内給与は平均〇・三％、一人当たり千百九円の引き上げとなり、定昇込みでは平均一・七二％、一人当たり六千三百四十六円の改正となりました。

また、諸手当においては医師確保調整手当の定額分について支給月額の限度が引き上げられ、平成二十八年四月一日から実施することで、二年連続の賃上げ妥結となりました。

日本赤十字社の決算報告においては、平成二十七年度は大変厳しい結果となっており、医療施設特別会計については百四十二億円の赤字決算、会計単位では九十施設中六十施設が赤字決算となっています。また、血液事業特別会計についても十七億五千万円の赤字決算となっています。平成二十八年度日本赤十字社の決算についての発表は例年六月に行われますが、平成二十八年度も大変厳しい状況と思われます。

今後、二〇二五年問題など医療費の増加が見込まれる中、医療施設の経営は大変厳しい状況になってくることは明らかで、我々連合体としても、引き続き諸先輩の方々が築き上げた「労使協調」「良識ある組合活動」の基本路線を受け継ぎ、常に時代の変化を見据えながら、諸問題に的確に対応していかなければなりません。

また、今後もより一層組織の活性化を図り、諸要求を運動に反映させるために「統一と団結の力」を最大限発揮して、組織の拡大と組合運動の強化を共通の認識とし、更なる躍進を続けていく決意のもと、活力あふれ、魅力ある組織を築き上げていかなければならないと考えています。

組合は組織力であり、組合員の皆様で築き上げるものと思っております。本年も信念は変わりなく「職員処遇の統一」を念頭に鋭意交渉を行っていきたいと思っております。そのためにも組合員皆様のお力をお借りする時があると思いますので、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

本年も日本赤十字新労働組合連合会に対する一層のご支援をお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念し、新年の挨拶に代えさせていただきます。

―第56回―
定期全国大会案内
平成29年2月19日(日)～21日(火)
「ホテルコンコルド浜松」
静岡県浜松市中区元城町109-18
TEL053－457－1111(代)

ブロック初心者研修会
日帰りバスツアー 泥団子作りも体験

名古屋第一赤十字病院従業員組合

十一月十二日(土)、名古屋第一赤十字病院従業員組合担当で第三ブロック初心者研修会を開催しました。今年は愛知県常滑～南知多方面へ日帰りバスツアーを企画し、各単組より三十二名の参加がありました。

名古屋駅に集合し、バスツアーの出発です。車中では「労働組合とは」「給与のあらまし」について、河崎中央書記長に講演していただきました。日赤新労の誕生から、時間外手当や有給休暇の仕組み等、組合執行部八年目の私も、とても勉強になる内容でした。

約一時間の講演が終わると、バスは第一の目的地「INAXライブミュージアム」に到着です。INAXはトイレなどの陶器で有名なメーカーです。こちらでは「光る泥団子作り」を体験しました。陶器に使用する泥を丸く成形し、瓶の裏で磨き続けると、泥団子が不思議と輝きます。バスの中では初対面で緊張していた参加者たちも、この頃には笑顔が見られ、リラックスした様子で体験を楽しんでいました。

泥団子作りでお腹をすかせた後は、お待ちかねの懇親会（昼食）の時間です。南知多にある「魚太郎」で、海を眺めながらの海鮮バーベキューを行いました。はじめは仲間内で集まっていた参加者も、時間が経つにつれて他施設との交流が見られるようになり、最後は「ジョイフルファーム鵜の池」で、デザートのミカン狩りを楽しみました。

新人の方々には、組合に関する知識を深めるだけでなく、同じ日赤の仲間と親睦を深める良い機会になったのではないでしょうか。

最後にお忙しい中、講師としてご参加いただきました河崎中央書記長に心から御礼申し上げます。

（書記長　山森雅大）

グループワークで親睦をはかる

—岡山赤十字病院職員組合—

十月二十九日(土)から十月三十日(日)の日程で、第五ブロック初心者研修会を開催しました。

今回は岡山赤十字病院が幹事となって行われ、高知市の「高知オリエントホテル」で研修会を行いました。参加人数は二十九名で、うち新人が十九名。本部から山本中央執行委員長、安井中央会計をむかえて、単組としては初の県外開催となりました。

交通手段にバスを用いて、まず香川県でうどん作り体験、琴平散策をしました。新人の皆さんには六班に分かれてグループワークをしてもらい、親睦を深めてもらいました。特にうどん作りは講師の方の勢いもあって、初対面のメンバーの心の距離はぐっと縮まったように思います。

研修は労働法について各班対抗のクイズ形式で行われました。講師は本部の安井氏で、バス移動の時間を利用して行いました。香川で深めた絆もあって、各班でああではないこうではないと白熱した勉強会となりました。

高知に到着した晩は三グループに分かれて各単組（鳥取・三原・岡山）が座長となり座談会が開かれ、各施設や部署の諸問題等について語り合いました。

翌朝、前日の座談会の報告と前日の研修会の続きが行われ、滞りなく初心者研修会を終了しました。

（執行委員長　江利陽介）

血液センター部会に参加して

去る10月21日(金)、名古屋市「IMYホール」において、平成28年度第2回血液センター部会が開催されました。

私は日頃病院に勤務しているので、血液センターではどのような問題に直面しているのかよくわかりませんでしたが、センターならではの諸問題について熱心な議論や情報交換が行われました。

その中でも印象に残った議題に、移動採血の問題がありました。病院での勤務は1日中建物の中での仕事がメインとなりますが、献血車に乗る職員は長時間の移動があり、1日に数カ所回る場合、移動時間や昼食を取る時間帯の考え方にだいぶ施設間の差があるようでした。

余談ですが、この血液センター部会の最中に鳥取で地震があり、部会に参加されていた山本中央執行委員長は気が気でなく、ずっとソワソワしていました。震度は最大6弱と大きな地震でしたが、鳥取日赤及び周辺では幸い大事には至らなかったようです。皆さんも赤十字に働く者として、常に災害には万全の対策をしておきたいものですね。

（中央執行委員　町田孝文）

北から南から

秋田乳児院にサンタ現る

盛岡赤十字病院職員組合

十二月二日(金)、秋田赤十字乳児院へ日赤新労有志数名でクリスマスプレゼントを持参して参りました。秋田乳児院職組の内部強化のついでに、子供たちにサンタクロースの姿でプレゼントを渡したいと、昨年秋友前中央執行委員長がサプライズ企画したもので、今年も継続することになりました。今年の発起人は石巻日赤の内海さんです。

内海さんが駄菓子、佐久間中央副執行委員長はおもちゃ、盛岡日赤単組からは乾電池と夜勤巡回用にライトを用意しました。

まずは秋田乳児院事務室に挨拶の後、一室を借りたおじさん四人がそそくさと準備を始めます。サンタクロースには見た目バッチリサンタさんの福島日赤職組の佐藤さんと内海さん、クリスマスツリーには盛岡日赤職組の川原が、そしてトナカイには佐久間中央副執行委員長が快く紛してくれました。

中央ホールに子供達が集合したところで、トナカイ・サンタ×2・クリスマスツリーの順で入場し、軽く挨拶をしたところでプレゼントを配りました。笑顔で受け取る子、恐る恐る近づく子、保育士さんに付き添われ近づく子、泣きじゃくり全く近づけない子。

内海・佐藤サンタ、佐久間トナカイが満面の笑みで子供達一人一人に声をかけながらプレゼントを手渡すと、「ありがとう」と笑顔を向けてくれる子、泣きながらプレゼントを受け取って戻る子と、子供達は様々な反応を示してくれました。

子供達と記念写真を撮影した後、組合員数名から労基法に関する相談をトナカイさん（佐久間中央副執行委員長）が受けました。

一ブロックには小規模な組合が多くありますが、単組間のつながりを大事にすることはもとより、どんなことでも相談できる上部団体（日赤新労）であってもらいたいものです。

様々な事情により乳児院で暮らす子供達に対し、保育ではなく養育として愛情をささげる職員の方々。その実情を知るためにも、まずは秋田乳児院のHPのチェックを！

（執行委員長　川原　猛）

職員組合結成五十周年を祝う

愛知県赤十字血液センター職員組合

愛知県赤十字血液センター職員組合は一九六六年の結成から五十年という節目の年を迎えたことを記念し、平成二十八年十月二十一日(金)にメルパルク名古屋において、結成五十周年記念式典と記念パーティーを開催しました。

記念式典は、山本中央執行委員長をはじめ、第三ブロック及び全国から多くの皆さんにお越しいただきました。ご多忙の中お越しいただき、この場をお借りして御礼申し上げます。また、全国の単組の皆様方からも丁重な祝電を頂戴しました。頂戴した祝電は式典と記念パーティーの中で披露させていただきました。

式典では、はじめに当単組執行委員長の水野晴久より「五十周年を一つの区切りとして、組合員一丸となって、新たな歴史に向い発展するよう頑張りたい」と挨拶を致しました。また、来賓の皆様からは祝辞を賜ったほか、これまで組合執行委員として長年当単組の組合活動に貢献した組合員の表彰も行いました。

記念式典後に行われた記念パーティーでは、式典にお越しいただいた来賓の方々のほか、当単組からも多くの組合員が参加し、当単組が主催するパーティーではこれまでにない規模の盛大な会となりました。日赤新労組合員の結束を施設側に示し、記念式典・パーティーの目的を十分に果たすことができたものと考えます。これも皆様の多大なご尽力・ご支援の賜物と心より感謝申し上げ、ご報告とさせていただきます。

（神藤　匠）